

幕臣像

関根正直「服制の研究」  
(1925年、吉今書齋)より

勝海舟記念館企画展

# 勝家普日譚

海舟へと至る、悠久の歴史

2024年11月15日(金)

～25年3月9日(日)

## ◆企画展ギャラリートーク

【日時】12月14日(土)、2月2日(日) 14時から

いずれも**ご予約不要**で、費用は**入館料のみ**。

定刻近くに、1階受付前にお集まりください。

## 大田区立 勝海舟記念館

Ota City Katsu Kaishu Memorial Museum

■開館時間 午前10時～午後6時

※毎週月曜(祝日の場合は翌日)、12月29日(日)から1月3日(金)は休館  
1月20日(月)・21日(火)は一部展示替えのため休館

■入館料 一般300円、小中学生100円(各種割引有り)

■所在地 東京都大田区南千束2-3-1

■電話 03-6425-7608

※最新の情報は、区ホームページをご覧ください。



# 勝家普日譚

海舟へと至る、悠久の歴史

2024年11月15日(金)  
～25年3月9日(日)

※1月20日(月)・21日(火)は  
一部展示替えのため休館

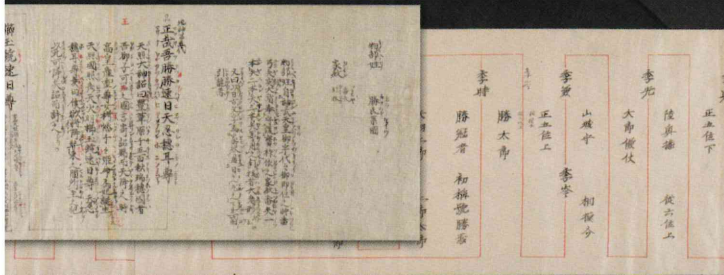
勝海舟やその父・小吉(夢酔)の江戸時代後期以降における活躍については、おなじみの方も多いことと思いますが、この「父子鷹」を輩出した勝家とは、元々どのような家だったのでしょうか？

この度、当館収蔵資料の中から、江戸時代中～後期における旗本勝家の当主ゆかりの資料が複数点発見され、従来不明瞭な部分の多かった勝家の前史の一部が明らかとなりました。

小吉・海舟の登場より前、数百年の長きにわたる勝“家”の歴史に光を当てる初の企画展。普段、展示でもほとんど触れられない海舟の“御先祖様”たちの存在と事蹟に注目してみましょう。

## 壹、伝承の時代～古代・中世の勝家～

勝家は、古代の政争に敗れた豪族・物部守屋の弟の末裔を名乗り、代々、物部氏を称した。いつの頃から「物部太郎季時」という人物が近江国坂田郡勝村(現・滋賀県長浜市勝町)に土着し、地名を苗字として「勝冠者季時」と自称して以降、勝家の歴史が始まったとされている。



【上】物部姓勝氏系図／【下】勝家系図

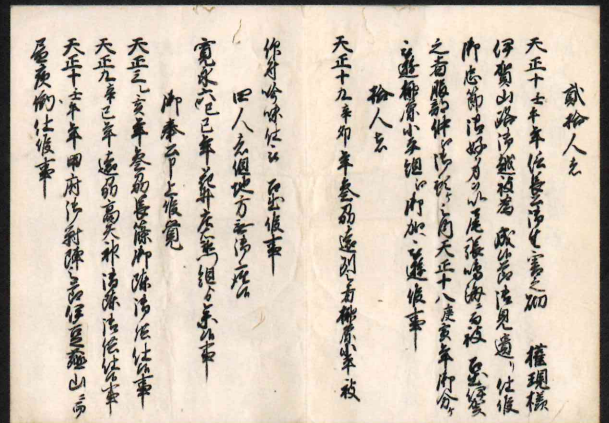
江戸時代に作られた系図から、勝家のいにしえに迫る!

## 貳、伝承から史実へ～徳川家に仕える～

勝家は近江国から三河国幡豆郡鎌村(現・愛知県南部)に移住したとされ、戦乱の時代の当主・勝市郎左衛門時直(?～1571)以降、ようやく歴史資料の上に具体的な情報が確認できるようになる。その子・時直が、長篠の戦いと同年の1575年に徳川家康に臣従し、最初期の大筆筒組に配属されたことで、旗本への道が開けた。

由緒書等から、戦国期にさかのぼる旗本勝家のルーツを探る!

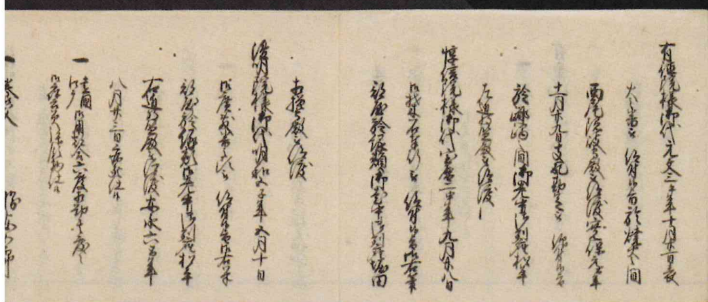
享保7(1722)年 勝命雅が控「大筆筒組御譜代筋目」



## 参、旗本勝家 歴代当主の経歴

徳川家康の関東入りに従った勝家。戦国の終焉と泰平の世の幕開けを見届けた時直が、1661年に105歳の長寿を全うした後、勝家は時武、武平、命雅、曹洪、雅尚(元良)、惟寅(小吉・夢酔)と代を重ね、第8代・義邦(麟太郎・海舟)の時に幕末に至った。この間の勝家は、幕府においてどのような立場にあって、いかなる歴史を紡いだのだろうか。

明細書等から、江戸時代における家の沿革と当主の活躍を紐解く!



文化元(1804)年4月付 勝元良筆「明細書」

勝家が歴戦の“三河武士”だった頃を想起させる  
「関ヶ原合戦」絵巻(部分)

# 初公開!

勝海舟旧蔵「関ヶ原陣対戦細図」(作者・  
成立年代不明)より、徳川家康本陣部分

